

日近太鼓

調査団体名	日近太鼓	団体代表者名	吉口照波
設立年	1994(平成6)年	対応してくれた人の名前	吉口照波、吉口和江
団体URL			
活動拠点	日近の里(岡崎市桜形町地内)	調査員	近藤朗、井上崇也
取材日	2015年12月5日	レポート作成者	井上崇也

活動内容

■「日近太鼓」の名称について

地元の旧額田町桜形町はその昔、一帯が日近という地名であり、奥三河の土着有力勢力であった奥平氏が築城した「日近城址」に由来。演奏では、奥平氏が後の徳川家康の軍勢と戦った「日近合戦」を太鼓の弾き語りで表現している。

■歴史

平成6年に5組の夫婦と3人の主婦で「日近太鼓研究会」として発足、「早川流やぐら太鼓」の先生に指導を受けていた。当初は形埜地区の神社から太鼓を借用し練習を行っていたが、翌年から県の補助金とメンバーによる林業収益により太鼓を購入した。その年に感謝祭として第1回「日近の里太鼓フェスティバル」を開催した。また練習場の駐車場や野外ステージを地元企業や川で遊ぶ会の協力により設置した。十周年を迎えた際に日近太鼓研究会から「日近太鼓」として早川流から独立し、その後も様々なイベントに出演した。平成27年2月に二十周年記念公演を開催するに至る。発足からその記念公演まで延760回の公演を行った。

■現在

大人15人、子ども5人の計20人。小学生から70代までと幅広く、高校生や20代30代も活躍している。演目も日近合戦太鼓やかおれの清流といった基盤曲から人気ドラマやアニメのテーマ曲まで数多く叩いている。チーム内にも演者の年代ごとにグループを作り、独自に出演もしている。

キャッチフレーズ

日近の里は人情厚き現代の別天地

会のモットー(何を大切にしているか)

楽しみ続けること！

活動には経費が掛かるが、義務的なものと思いながらやるのではなく、カラオケのように楽しむための費用ととらえて維持管理しながら楽しもうという精神。

設立から現在に至るまで変化したこと

当初は本当に太鼓がやりたいという気持ちで始まった。しかし、様々なイベントに参加し、活動していくうちにそれが結果的に地域おこしにつながっていった。根本の大事な部分として自分たちが楽しむということは忘れてはならない。

連携している団体・専門家・自治体など

早川流、杉浦太鼓店始め地元太鼓団体、城西高校

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

清流や澄んだ空気を生み出す豊かな緑の山々のある桜形町を歴史ある「日近の里」として、多くのイベントでの公演により広く市内外にPRしている。

現在直面している課題

設立当初のメンバーが高齢になってきている。立ち上げた人の前に立って自分が引っ張っていくんだという人がほしい。

今後やってみたいこと

小学生に対して、太鼓を通じて日近の歴史を伝えていきたい。できれば、日近に来てもらって直接様子を見てもらえれば印象にも残るのではないかな。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

教育委員会、太鼓に興味がある学校の教頭先生や校長先生

チームオリジナルの質問

<質問内容>メンバーに小学生がいるが、そういった子はどのようにして参加してくるのか。

<答え>日近太鼓が出演したイベントで見て聴いて、自分もやりたいと言ってくることが多い。地元の子ばかりではなく、岡崎市街から来る子もいる。

その他、伝えたいこと

■取材者から

日近太鼓は2015年に20周年を迎え、市民太鼓団体の先駆けとして精力的に活動されてきました。その原動力の根底にあったのは、何よりも自分たちが楽しみたい、やりたいという気持ちでした。日近太鼓の活動が受動的なものであったら20年以上も長く続くことはなかったのではないのでしょうか。魅力を見出して前向きな気持ちで活動できたことに中山間地域再生の鍵があると感じた取材でした。

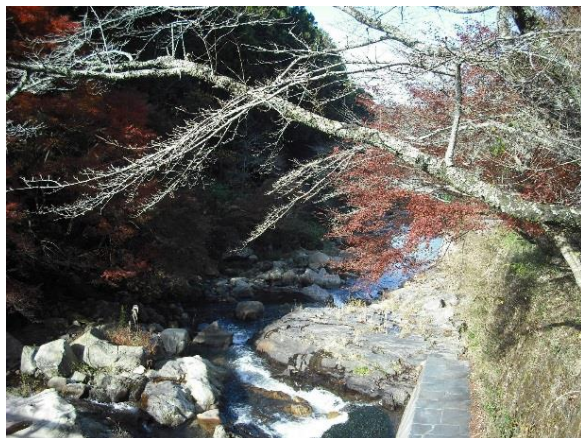
写真



元木材加工場を利用した練習場



吉口夫妻と取材者



日近の里の脇を流れるかおれ溪谷



平成28年1月1日 新年交礼会でのステージ
(岡崎市提供)